

TOPICS 時々刻々

第24回日本臨床細胞学会関東連合会 学術集会を開催して

長野県では三巡目となる当学会(学会長 石亀廣樹)を、残暑の厳しい最中の9月18日に軽井沢プリンスホテルウエストで開催した。当会は関東甲信静越1都10県約3600名の会員を擁する最大規模の連合会で、臨床細胞学の進歩と普及を旨とし、学術集会などの公開事業開催を年一回行なっている。今学会の運営委員として、副実行委員長に塩澤哲、事務局長に中山朋秋、

そして事務局員として当病理部職員が名を連ね、準備段階から中心的な役割を担い、学会運営の全般に携わった。

この度の学会テーマを、「実践的な細胞診を目指した新たな試み」とした。細胞診の初心に戻る意味で、講談社ブルーバックス「細胞発見物語」の著者として有名な山科正平先生から、微細形態学の展望や細胞の形態と機能発現に関するお話をお聴きした。教育講演の各演者には、細胞診に役立つものの見方、考え方、対処の仕方を念頭に講演していただくように依頼した。シンポジウムIIは10名の細胞検査士が細胞同定や推定病変に自信のある所見を述べ、専門の先生方から逐一コメントをいただいた。これらの症例は前もってWeb上でパーチャ



セッションには例年の2倍以上にのぼる44題の応募があり、内容の濃いプログラムを展開できた。

また同一会場で、軽井沢町の後援を得て、「命を奪うがん細胞を見つめてみよう」のテーマで、がん検診の啓発と細胞診の広報活動を目的とする市民公開講座を設けた。

学会参加者は414名、メーカー参加者56名、市民公開講座参加者133名であった。

平成22年度の診療報酬改正で細胞診断料が新設され、細胞診に従事する者にとっては追い風の環境となっている。今学会ではハンドアウト誌を発売して、事後の実践細胞診に少しでも役立てていただくことを考えた。

素人集団による学会開催

であり、前夜は夜中まで会場の準備に追われ、当日は早朝から担当部署について、おもてなしにあたった。そして約100名の県内会員と労務者などが実行委員・実務委員として滞りない学会運営に従事し、多くの方から学会が成功裡に終了したとの評価を受けた。また、前夜にお越しいただきご挨拶をいただいた伊澤敏院長はじめ、ご協力いただいた院内関係者に、この場をお借りして御礼申し上げます。(病理部 石亀廣樹)

Endo Skill Up-Date 2010が開催

Endo Skill Up-Date 2010が9月18日に開催された。過去10回行われたESD Live Demonstrationでは、当院胃腸科の小山部長をはじめとするESD

(Endo-scope sub-mucosal dissection : 内視鏡的粘膜下層剥離術)を開発された日本の先駆者の先生方が、海外を含め、全国から集まった内視鏡医の先生方にESDの技をお見せし、安全で確実な内視鏡治療を伝道・普及させるものであった。

Endo Skill Up-Date 20



10は、それがさらに発展し、ESDのみでなく特殊光を用いた拡大内視鏡診断や超音波内視鏡診断など、最先端の内視鏡診断から治療までを一貫してお見せするものである。

今回のESU2010では当院で診断治療を行い、その様子を東京会場で見ただく形で行われた。当院には、その分野ではトップのご高名な先生方が集まってくださり、また小山部長のもと修行し今は各施設で指導する立場で頑張っている佐久の卒業生たちも手伝いに集結した。

がんを見つけて内視鏡治療をする場合、がんの広がりや正しく診断しなければ、正確・確実な治療にはならない。だから、内視鏡医には診断能力が求められる。東京会場には400人近い医師が集

まり、熱心に勉強されていた。私はスタッフとして参加したが、診断から治療をすぐ傍で見ることができ、大変勉強になり興奮すら覚えた。多くの医師・看護師

・内視鏡技師・事務が団結し協力し、予定時間内に全ての診断治療が、偶発症なく安全に施行され、Endo Skill Up-Date 2010は大成功のもとに終了した。

今回のLiveに快く協力してくださった6名の患者さんたちには心から感謝いたします。

(胃腸科 北村陽子)

第37回長野県臨床検査学会

第37回長野県臨床検査学会が「医療の安全と患者の心」をメインテーマとし、佐久総合病院総技師長・池田昌伸学会長の下で10月3

日、佐久大学を会場に開催され、県内全域から400人程の臨床検査技師が参加した。

まず、一般演題54題の発表が行われ、日常検査の中で発見された身近な内容から最新技術による検討、貴重な症例などさまざまな内容が発表され、活発な討論が行われた。

シンポジウムでは「医療メデイエーション」をテーマに取り上げた。

臨床検査技師も患者様と接する機会が増え、いろいろな場面で患者様との対話が必要になってきている。誤解による行き違いを解決する手法を学ぶきっかけとなった。

特別企画として市民公開講演では、タレントの三四郎さんに「人生アゲンスト」という題で、ご講演いただいた。講演のなかで「目の



前に存在するものは、自身の見方や行動を変えることで変化する」「自身が変えることで世界が変わる」という話には感銘を受けた方も多かったと思う。誰にでも経験があるようなことを例に挙げての内容に、最後まで大変わかりやすく聴講できた。

学会の最後には、SAXO-PHON VIVI (サクソフォーン ヴィヴィ) による

Saxophoneとオカリナの演奏が行われ、その美しい音色に心安らぎ、癒され、いつまでもその音の世界を堪能してきたい気持ち良さだった。

今回は長野県臨床衛生検査技師会東信支部の担当で学会が開催され、支部会員の皆さんの協力で学会を盛会に開催することができた。
(臨床検査科 鈴木信三)

日本福祉大学 大学院講座

佐久総合病院では毎年、日本福祉大学大学院との共催による公開講座を開催しており、今年度で第11回を迎えた。今年度は「政権交代・ねじれ国会下での医療政策の動向」を統一テーマとして、9月2日に佐久総合病院教育ホールにて行われた。



日本福祉大学副学長・常任理事で社会福祉学部の二木立教授には、「政権交代と民主党の医療政策」、近藤克則教授には、「高齢者医療制度改革の課題」、牧野忠康教授には「自治体病院の現状と課題―地方主権と地域自治・住民自治」、篠田道子教授には「フラン

スの在宅入院から学ぶ重層的な在宅支援」というテーマでそれぞれ講演いただいた。限られた時間の中で、著名な4先生に一堂に会して講演いただくという贅沢な企画に、今年度は参加者数300名を超えて県内各地よりお集まりいただいた。会場からの質問の中で、

混合診療解禁に向けての危惧についての質問が上がり、二木教授から「全面解禁は絶対に取り得ないし、心配はいらない」との明確な説明とお答えがあった。また、在宅医療が行われている中で「胃ろう」の問題について、自分がその立場になったらどうするか議論が4先生間での掛け合い的に進められ

た。

質問に対してのお答えの中で、「その問題について語れば長くなるので、あらためて来年のテーマにしましょう」との次年度の約束までいただいているので、今年度残念ながら参加できなかった方は、ぜひ来年度はご都合を付けていただきご参加ください。

(地域ケア科 竹内俊文)

第1回月1子育て

サロンを開催

第1回月1子育てサロンが10月15日に看護専門学校2階で開催された。子育てサロンは働きやすい病院づくり委員会によって平成20年10月から、子育て中の職員が仲間同士で支え合うピアサポートの場とし



て開設されている。今までは相談業務が主な活動だったが、今回から月に1回、同じ子育てをする仲間づくり、子育てをしながら働くイメージづくりの場も提供することとなった。

当日は17組の親子の参加があった。まだ3カ月の小さな赤ちゃんはお母さんのそばで寝ていて、はいはいできる子は広い会場を縦横無尽に動き回る、とてもなごやかで、にぎやかな会になった。

今回のサロンのメインテーマは「骨盤ケア」。3東病棟の助産師新津美晴さんに講師をお願いし、産後の骨盤ケアの大切さとその方法を教えていただいた。サラシを腰に巻き、ちよつと

体操するだけでどんどん体への重みをとれ、巻いたサラシがゆるくなつていく方もいた。夜泣きがある赤ちゃんのお母さんたちに合わせ、熟睡できる枕の選び方、使

今月の作品「秋」

9月16日 佐久穂町



色とりどりに色を変えた野山、地面からは赤や黄色の帽子をかぶったキノコが顔をだして秋を演出していました。

Canon F8 1/500 秘書広報課 北村裕子

でも充実した時間となった。参加者からは「体がガチガチだったので骨盤ケアでリラックスできた」「みんなが集まっていたの会はとても楽しかった」などの感想をいただいた。

委員会では、子育て中の職員も元気に楽しく働ける働きやすい病院づくりのために、今後も検討していく。月1サロンへぜひ多くの方のご参加を。

(人事課 伊東未来)

院内バスケット

ポール大会

院内バスケットポール大会が佐久穂町海瀬体育館で9月25日に開催された。これはバスケットポール同好会Baseのメンバーで企画・運営されている。今回は、第8回目であり毎年恒例の行事となつてきている。参

加チームは10チームであった。順位の決定方法は、くじで、5チームずつ分かれて2つのリーグを作り、その中で1チーム2試合ずつ行い、勝敗関係なく得失点差を出して順位を決めた。そのリーグの順位をもとに、各リーグの1位同士、2位同士、3位同士、4位同士、5位同士で対戦し、最終的な順位を決定した。フリースロー大会は、時間がなくなつてしまふ実施することはできなかった。



順位は、1位南の幸太郎(南病棟)、2位I・J・K(医事課)、3位リハビリ科、4位ホリユーターズ(総務課)、5位バームクーヘン(薬剤部・臨床検査科)、6位びんころ一家(施設課)、7位5東病棟・小海分院、8位クラッシュ(OPE室)、9位サイナス(ICU)、10位精神科病棟であった。

お忙しいなか、たくさんの方々に参加していただいた。ちなみに、バスケットポール同好会Baseの練習は毎週水曜日20時から行なっている。(4階西病棟 小澤真人)